

《担当者名》准教授 / 堀田 清

【概要】

西洋医学と対極に位置する東洋医学。それが漢方である。足りないモノを補い（補剤）、必要以上に多いものは排する（瀉剤）。その根源をなすのが、人間を生かすための生命エネルギー「気」という概念である。この概念を理解し、補気剤、理気剤、補血剤、利尿剤などの基本的漢方方剤について解説する。

中国で形成された伝統医学は、日本に伝えられ、改変され、日本漢方となった。この日本漢方は、明治維新前の医療の中心であったが、その後、医療の改革により衰退した。しかし、近年、西洋薬にない効果を持つ漢方薬が見直され、患者の症状を総合的に判断し、経験に基づいて各種生薬を配合した方剤を用いて治療を行う日本漢方は、現代医療の中で多方面に利用されることになった。現在148の医療用漢方処方が健康保険に適用されている。医学部では「東洋医学」の講義をスタートした。本講義では、漢方の基礎ならびに処方理解と運用方法を説明し、臨床例を示して理解を深める。

【全体目的】

漢方の考え方、疾患概念、代表的な漢方薬の適応、副作用や注意事項などに関する基本的事項を修得する。

【学修目標】

世界の伝統医学について説明できる。

漢方の基礎的知識を修得し、漢方治療に用いられる生薬の薬理効果と漢方処方、特に保険収載方剤の理解を深める。さらに、臨床例についてその適応を概略できる。

【学修内容】

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
1	漢方の基礎 教科書：P1～35 & DVD使用	漢方の特徴について概説できる。 気血水、特に気と血の概念について概説できる。 証、陰陽、虚実、寒熱について概説できる。 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(10)- -1, 2, 4	堀田 清
2	漢方の基礎 教科書：P1～35 & DVD使用	漢方の特徴について概説できる。 気血水、特に気と血の概念について概説できる。 証、陰陽、虚実、寒熱について概説できる。 五行論に基づく五臓（肝、心、脾、肺、腎）について概説できる 漢方薬と西洋薬、民間薬、サプリメント、保健機能食品などとの相違について説明できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(10)- -1, 2, 4	堀田 清
3	漢方の基礎と応用（人参剤） 教科書：P88～102(人参剤)、P142(十全大補湯)	気虚、気滞(気鬱)、気逆の症状について簡単な症状判断方法について概説できる。 脾胃気虚（胃腸の冷えている証）に対する代表的な補気薬（人参湯、四君子湯、六君子湯、補中益気湯）に配合されている生薬、特に人参について概説できる。 胃腸の気（元気）が足りない＝冷え性であることを理解し、その元気を補う主薬としての人参について概説できる。 脾胃気虚の証の代表的な症状を概説できる。 気血両補剤である十全大補湯についても、配合生薬、治療効果について概説できる。 1年生、2年生時に修得した薬用植物学、生薬学から生薬の科名、基源植物、薬用部位、成分などを概説できる。	堀田 清

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(10)- -3, E2-(10)- -1,2,3 E2-(10)- -1	
4	漢方の基礎と応用（理気剤） 教科書：P104～109	理気＝気の巡りについて概説できる。 気虚、気滞（気鬱）、気逆の症状簡単な症状判断方法について概説できる。 気の巡りを改善する主薬としての紫蘇葉、香附子、厚朴について概説できる。 気滞（気鬱）改善の代表的理気剤である香蘇散、半夏厚朴湯について配合されている生薬について概説できる（科名、基源植物、薬用部位、成分など）。 1年生、2年生時に修得した薬用植物学、生薬学から生薬の科名、基源植物、薬用部位、成分などを概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(10)- -3, E2-(10)- -1,2,3 E2-(10)- -1	堀田 清
5	漢方の基礎と応用（補血剤） 教科書：P136～155	血の異常、血虚（西洋医学では貧血）、瘀血について概説できる。 血虚の簡単な診断方法、症状（しもやけ、凍傷などは典型的）について概説できる。 血虚を改善する代表的な補血剤（四物湯、当帰芍薬散）に配合されている主薬、当帰について概説できる。 四物湯に配合されている地黄の副作用（胃腸障害）について概説できる。 各漢方処方に配合されている生薬について概説できる。 補血剤としての十全大補湯について概説できる。 1年生、2年生時に修得した薬用植物学、生薬学から生薬の科名、基源植物、薬用部位、成分などを概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(10)- -3, E2-(10)- -1,2,3 E2-(10)- -1	堀田 清
6	漢方の基礎と応用（駆瘀血剤） 教科書：P146～155	瘀血（西洋医学では微小循環障害）について概説できる。 瘀血の簡単な診断方法、症状（目の周囲のクマ、唇が紫色、舌下静脈の怒張）について概説できる。 瘀血を改善する代表的な駆瘀血剤（桂枝茯苓丸、桃核承気湯）に配合されている主薬、桃仁について概説できる。 各漢方処方に配合されている生薬について概説できる。 駆瘀血剤は妊婦には用いられないことを概説できる。 桂枝茯苓丸、桃核承気湯に配合されている生薬について、1年生、2年生時に修得した薬用植物学、生薬学から生薬の科名、基源植物、薬用部位、成分などを概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(10)- -3, E2-(10)- -1,2,3 E2-(10)- -1	堀田 清
7	漢方の基礎と応用（附子剤） 教科書：P192～204	腎の陽気不足（腎陽虚）について概説できる。 腎陽虚について、簡単な診断方法、症状について概説できる。 腎陽虚を改善する代表的な附子剤（真武湯、八味地黄丸、牛車腎気丸）に配合されている主薬、附子について概説できる。 附子の副作用について概説できる。 各漢方処方に配合されている生薬について概説できる。 1年生、2年生時に修得した薬用植物学、生薬学から	堀田 清

回	テーマ	授業内容および学修課題	担当者
		生薬の科名、基源植物、薬用部位、成分などを概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(10)- -3, E2-(10)- -1,2,3 E2-(10)- -1	
8	漢方の基礎と応用（柴胡剤） 教科書：P64～75 & P69～70(柴苓湯 & 柴朴湯)	肝の陽気過剰(肝気鬱結)について、簡単な診断方法、症状について概説できる。 肝の陽気過剰(肝気鬱結)を改善する(過剰の気を瀉する)主薬、柴胡と黄芩について概説できる。 肝気鬱結を改善する代表的な柴胡剤(大柴胡湯、小柴胡湯、四逆散、柴胡加竜骨牡蠣湯)に配合されている各生薬について概説できる。 柴胡の副作用(インターフェロン製剤との併用による間質性肺炎)について概説できる。 1年生、2年生時に修得した薬用植物学、生薬学から生薬の科名、基源植物、薬用部位、成分などを概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(10)- -3, E2-(10)- -1,2,3, E2-(10)- -1	堀田 清
9	漢方の基礎と応用（苓連剤） 教科書：P164～175	五臓の内、陽の臓器である心の過剰エネルギーによる心熱を取り去る清熱瀉火について概説できる。また、心熱過剰の状態の簡単な診断方法、症状について概説できる。 心の陽気過剰を改善する(過剰の気を瀉する)主薬、黄芩と黄連について概説できる。 過剰の心熱を瀉する代表的な苓連剤(黄連解毒湯、三黄瀉心湯、半夏瀉心湯、甘草瀉心湯、生姜瀉心湯)に配合されている各生薬について概説できる。 1年生、2年生時に修得した薬用植物学、生薬学から生薬の科名、基源植物、薬用部位、成分などを概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(10)- -3, E2-(10)- -1,2,3 E2-(10)- -1	堀田 清
10	漢方の基礎と応用（桂枝麻黄剤） 教科書：P40～62	桂枝麻黄剤は、一般的に風邪薬として用いられることを概説できる。 麻黄が配合されていない桂枝湯と、麻黄が入っている漢方処方を使い方の違いを概説できる 麻黄湯、葛根湯、葛根湯加川芎辛夷、小青竜湯、麻黄附子細辛湯の使用法、配合されている各生薬について概説できる。 麻黄に含まれるエフェドリンは、国家試験にも頻度高く出題される重要な薬物なので、化学構造式、薬理学の知識を復習してもらおう。また、エフェドリンは覚せい剤原料でもあることも併せて学習してもらいたい。 1年生、2年生時に修得した薬用植物学、生薬学から生薬の科名、基源植物、薬用部位、成分などを概説できる。 関連するモデルコアカリキュラムの到達目標 E2-(10)- -3, E2-(10)- -1,2,3 E2-(10)- -1	堀田 清

【授業実施形態】

面接授業

授業実施形態は、各学部（研究科）、学校の授業実施方針による

【評価方法】

期末定期試験(100%)

【教科書】

「漢方薬物ガイドライン」岡村 信幸 著 京都廣川書店

【参考書】

* J J N ブックス 「絵でみる和漢診療学」寺澤 捷年 著 医学書院

【学修の準備】

「指定した教科書の病態からみた漢方薬物ガイドライン（京都廣川書店）を事前に読んでおくこと」（50分）

指定した教科書は、卒業後、漢方薬の勉強が必要になった時にでも通用するものを選んでいきます。

とはいえ、化学を基礎とした西洋医学的知識を集積してきた学生諸君が、東洋医学的概念を10回の講義で全て理解することは、かなりハードルの高いことです。ですので、講義は、国家試験レベルの基礎的な内容になりますが、理解するためには、復習、予習が必要になります。西洋医学的な概念とは異にしますから、復習、予習して、理解できない部分があれば、素朴な質問でも良いですから、どんどん質問してください。

なお、本講義では、薬用植物学、生薬学の知識は当然知っていることとして話をしますので、復習しておいてください。（50分）

また、生薬名はカタカナではなく漢字を使います。例えば、カンゾウは甘草、シャクヤクは芍薬。これは、芍薬甘(しゃくやくかん)草(ぞう)湯(とう)のように、漢方薬が漢字表記だからです。

【関連するモデルコアカリキュラムの到達目標】

E2 薬理・病態・薬物治療

(10) 医療の中の漢方薬

【 漢方薬の基礎】

【 漢方薬の応用】

【 漢方薬の注意点】

【薬学部ディプロマ・ポリシー(学位授与方針)との関連】

2. 有効で安全な薬物療法の実践、ならびに人々の健康な生活に寄与するために必要な、基礎から応用までの薬学的知識を修得している。